

ニホンジカ ガイドラインの概要・ポイント



一般財団法人 自然環境研究センター 中田靖彦

本日のニホンジカに関する講義

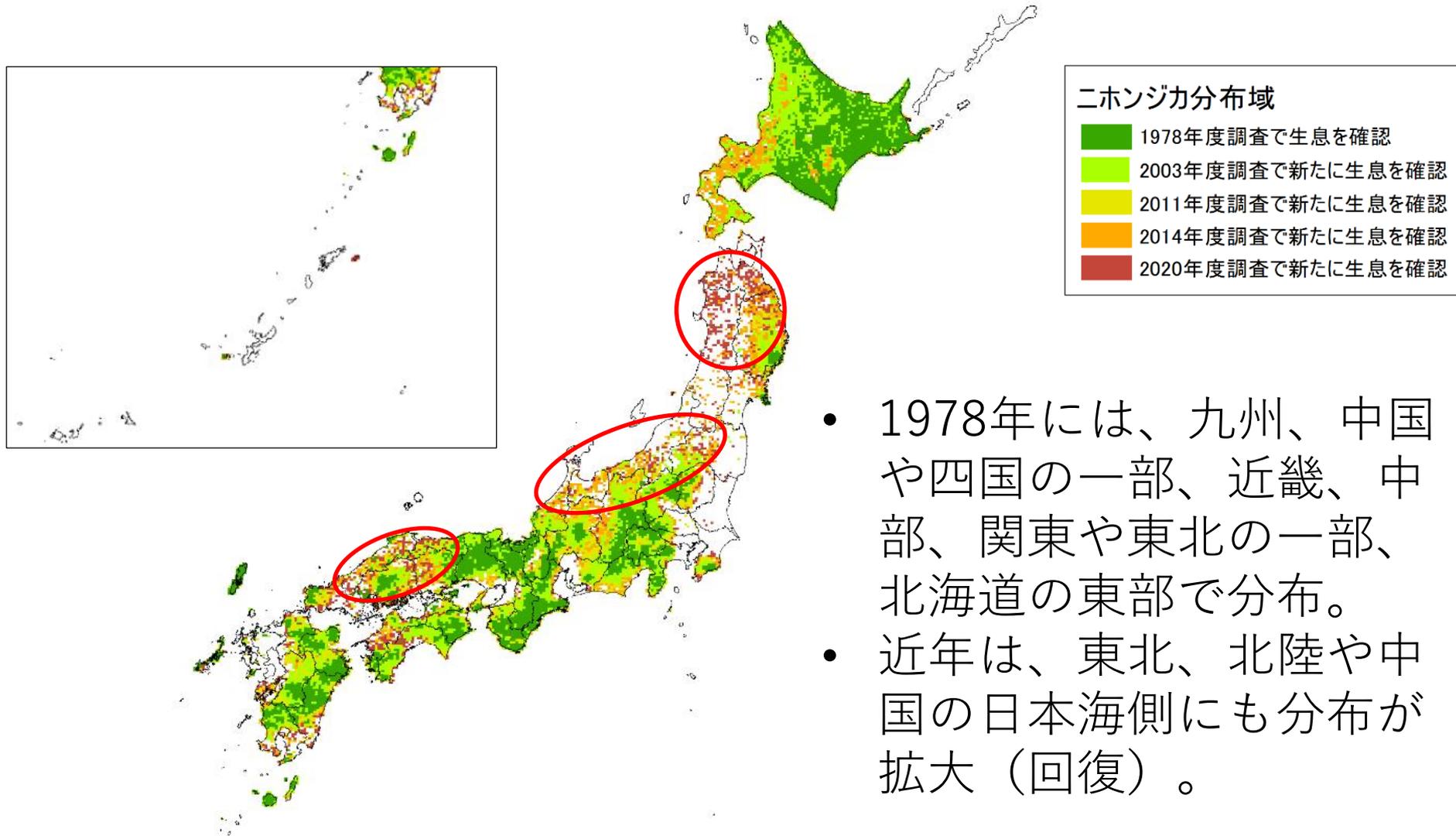
講義① ガイドラインの概要・ポイント

シカの保護管理における問題の種類と計画の全体設計

1. 現状の把握
2. 特定計画の目的と目標
3. 目標を達成するための施策
4. フィードバック管理

講義② 地域の課題に応じた個体群管理と被害防除の総合的な対策

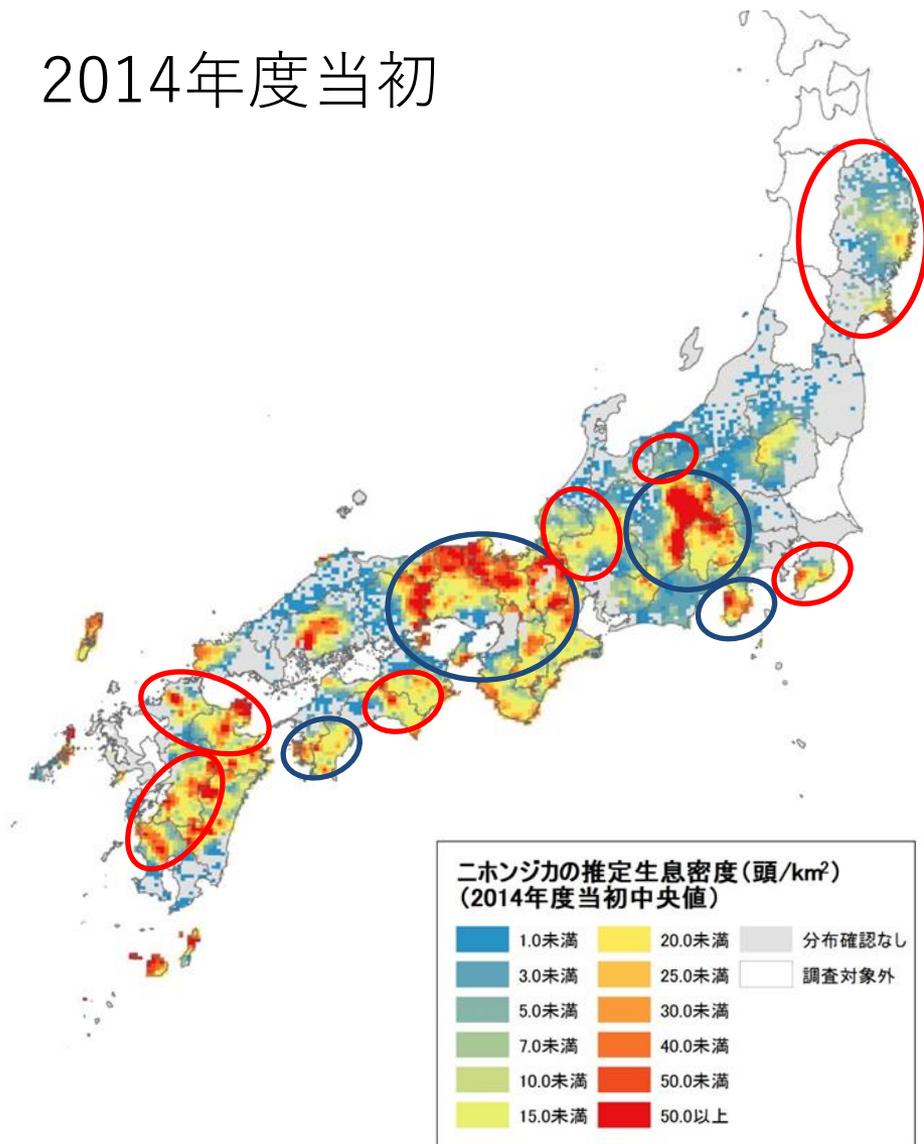
1. 現状 分布状況



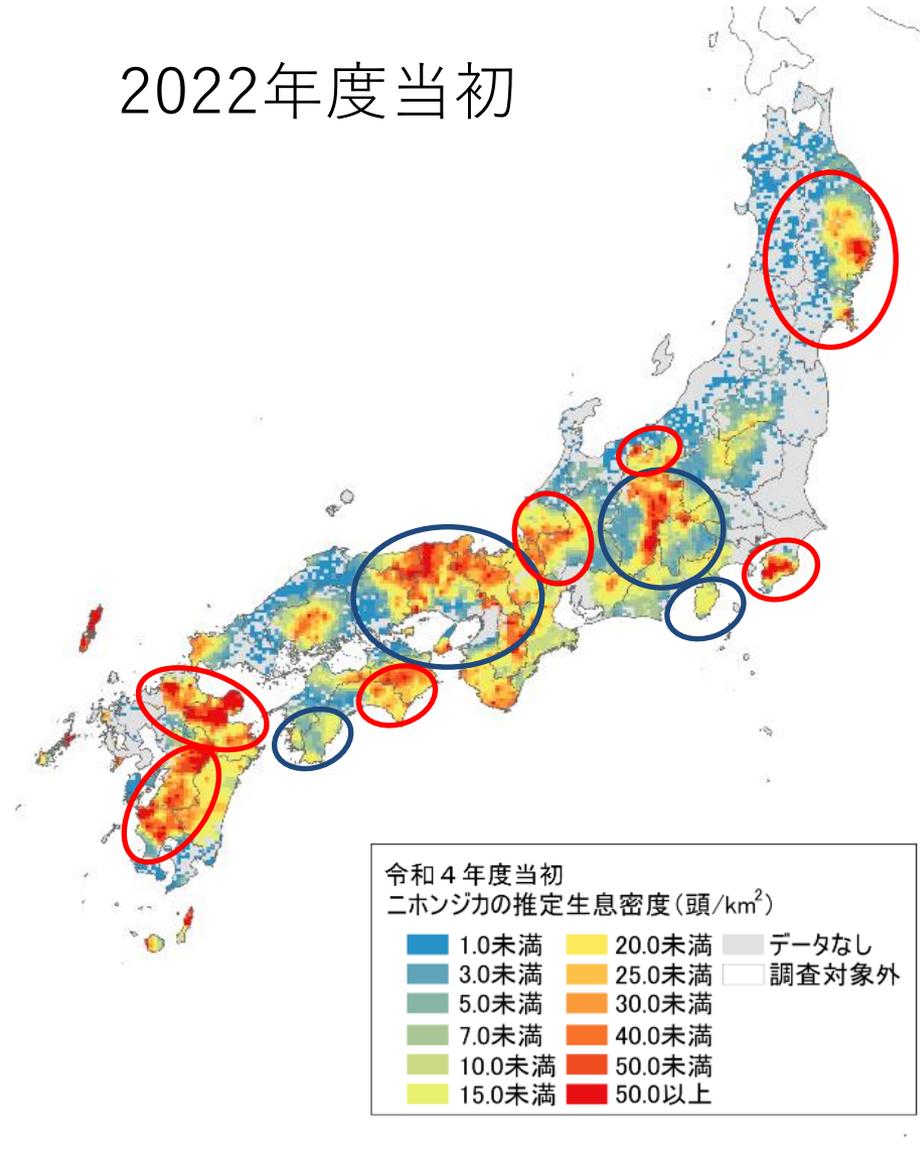
ニホンジカの分布

1. 現状 密度分布状況

2014年度当初



2022年度当初



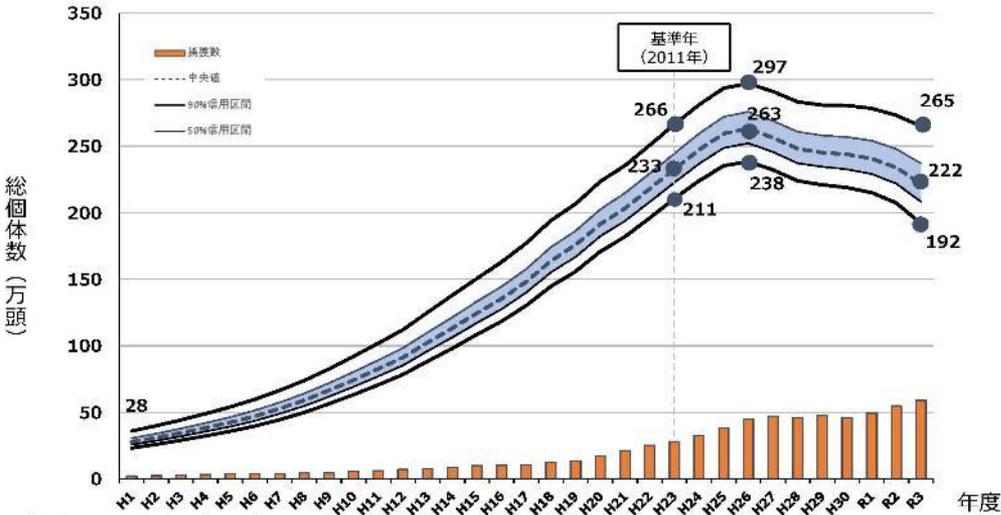
ニホンジカの密度分布

第二種特定鳥獣管理計画作成のためのガイドライン(ニホンジカ編)

ニホンジカの密度分布

未発表資料

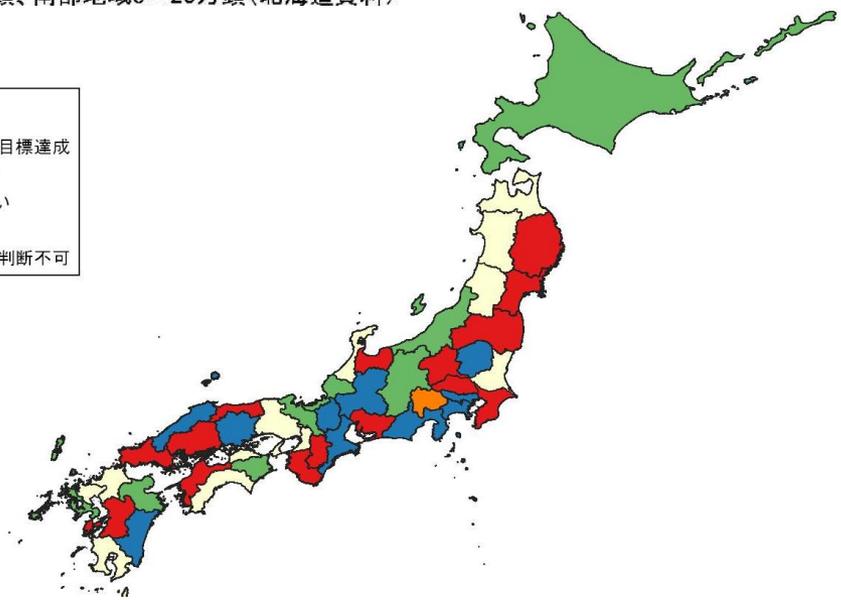
1. 現状 推定個体数



※ 令和3(2021)年度の自然増加率の推定値は、中央値1.20(90%信用区間:1.17-1.23)
 ※ 令和3(2021)年度の北海道の推定個体数は、東部地域31万頭、北部地域18万頭、中部地域20万頭、南部地域3~20万頭(北海道資料)

- 全国※北海道を除く
- ニホンジカの個体数は2014年度をピークに減少傾向が継続しているが、依然として高い水準。
- 国は半減目標を2028年度まで延長

- 都道府県別
- 地域的な傾向が見えにくい
が、東北では増加している。



推定個体数の傾向

都道府県の特定期間、環境省が集計した都道府県別個体数推定結果等から作成

1. 現状 傾向の判断方法

●傾向の判断方法

- ① 5年間（もしくは3年間）の移動平均でH23～R2の各年の値を均す
- ② 前年度の値に対して、H23～R2の平均値を物差しとしてどの程度増加減少したかを計算
- ③ 以下の基準を基に傾向6区分で判断（データが少ない場合は「減少後増加」、「増加後減少」の傾向区分はしない）
 - ・ 減少 : 5%以上の減少が2回以上ある&増加はない
 - ・ 増加 : 5%以上の増加が2回以上ある&減少はない
 - ・ 横ばい : 5%以上の増減が2回以上ない
 - ・ 減少後増加 : 5%以上の減少の後に5%以上の増加がある&その他に5%以上の増減がない
 - ・ 増加後減少 : 5%以上の増加の後に5%以上の減少がある&その他に5%以上の増減がない
 - ・ その他 : 上記に当てはまらない
- ④ 半分以上が0のデータの場合は除く

増加

H23

R2

減少

H23

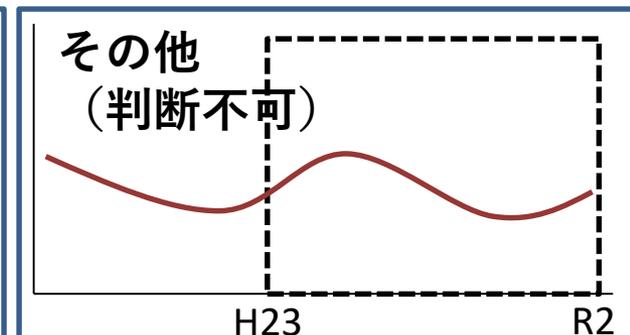
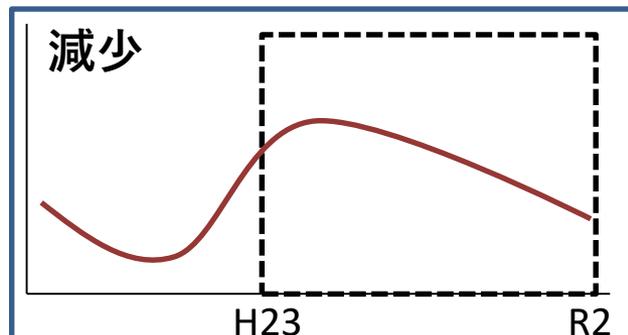
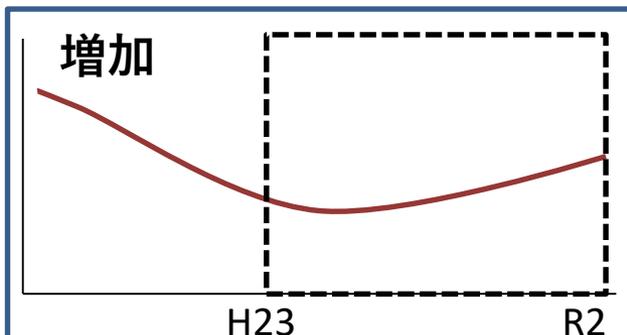
R2

その他

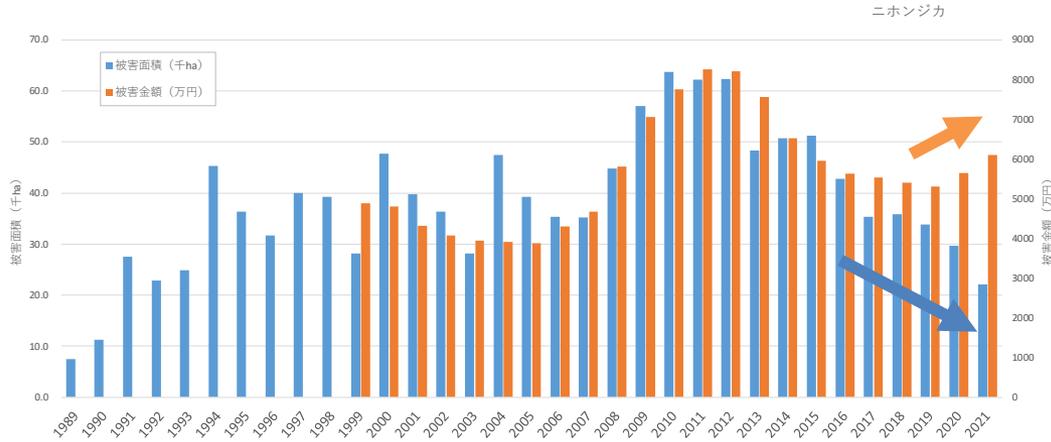
(判断不可)

H23

R2

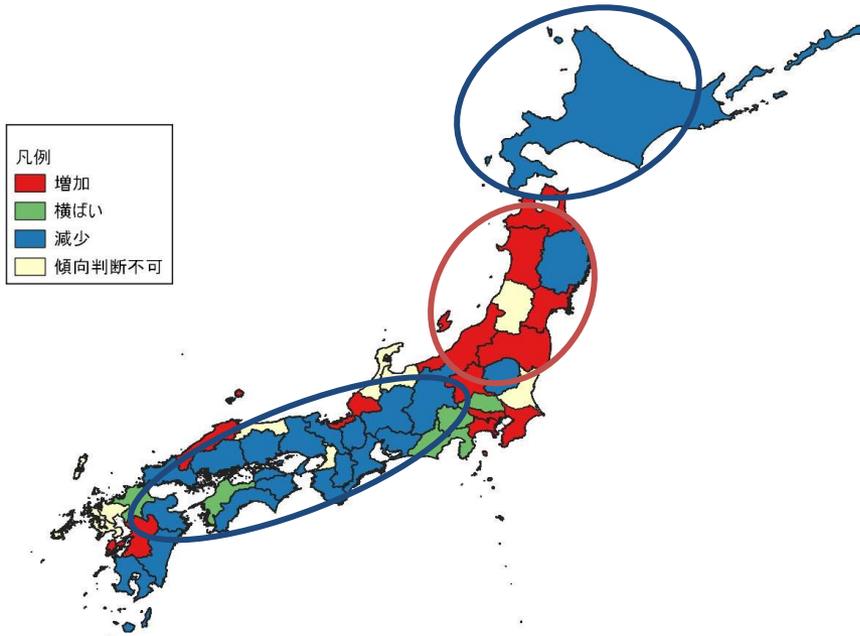


1. 現状 農作物被害



農作物被害金額と面積

農林水産省(2022)農林水産省報道発表資料から作成



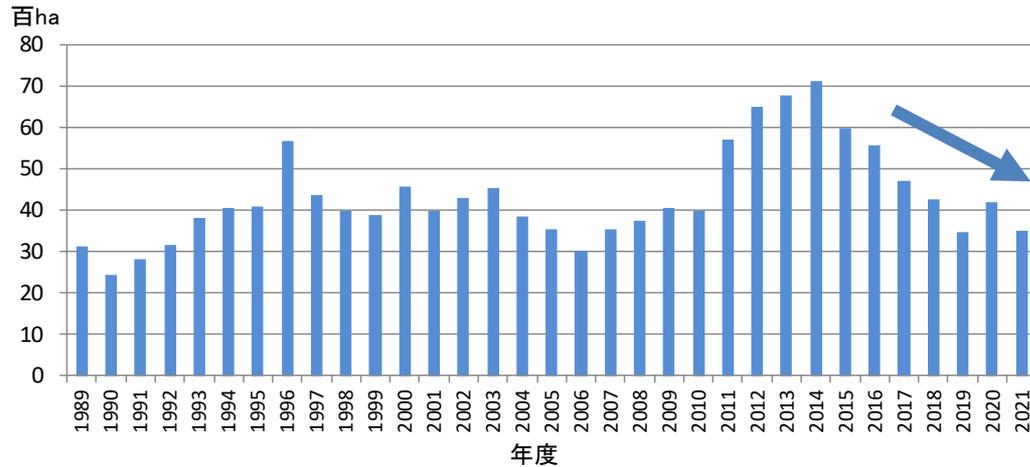
農作物被害金額の状況

令和4年度ニホンジカ・イノシシ・アライグマに係る保護管理検討調査等業務報告書より

- 全国
- 被害面積は近年は減少傾向。
- 一方、被害金額がやや増加傾向。

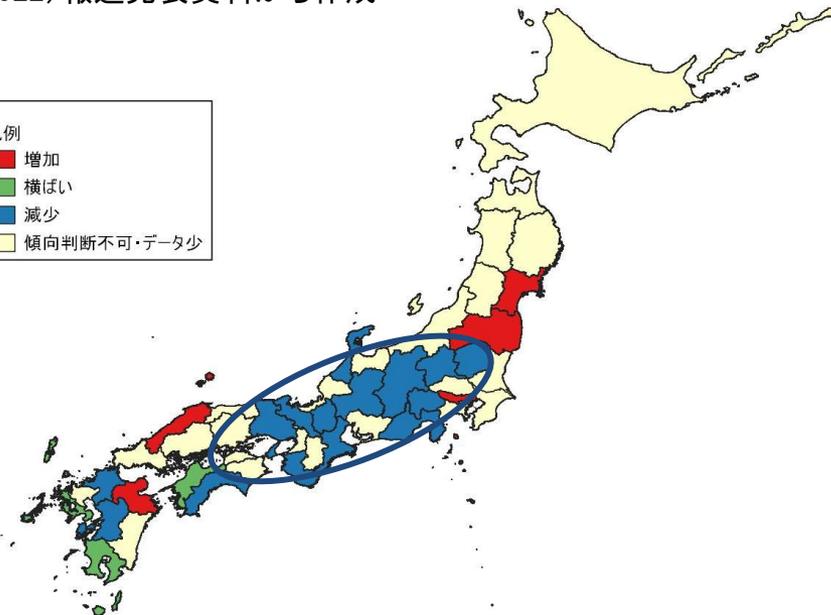
- 都道府県別
- 1970年代から生息が確認されていた、西日本の広い範囲や北海道で減少傾向。
- 東北、日本海側では増加傾向。

1. 現状 森林被害



森林被害面積

林野庁(2022)報道発表資料から作成



森林被害面積の状況

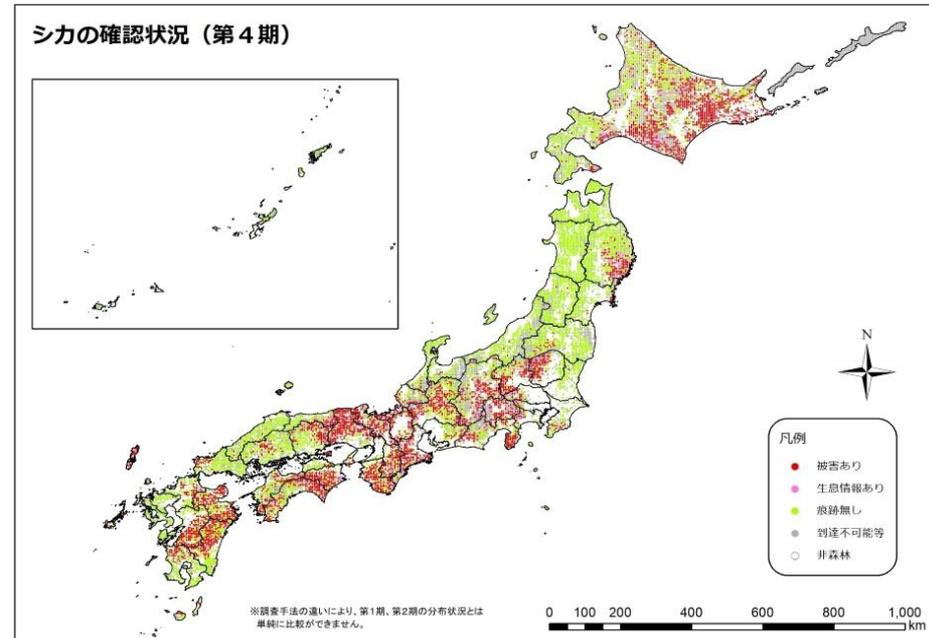
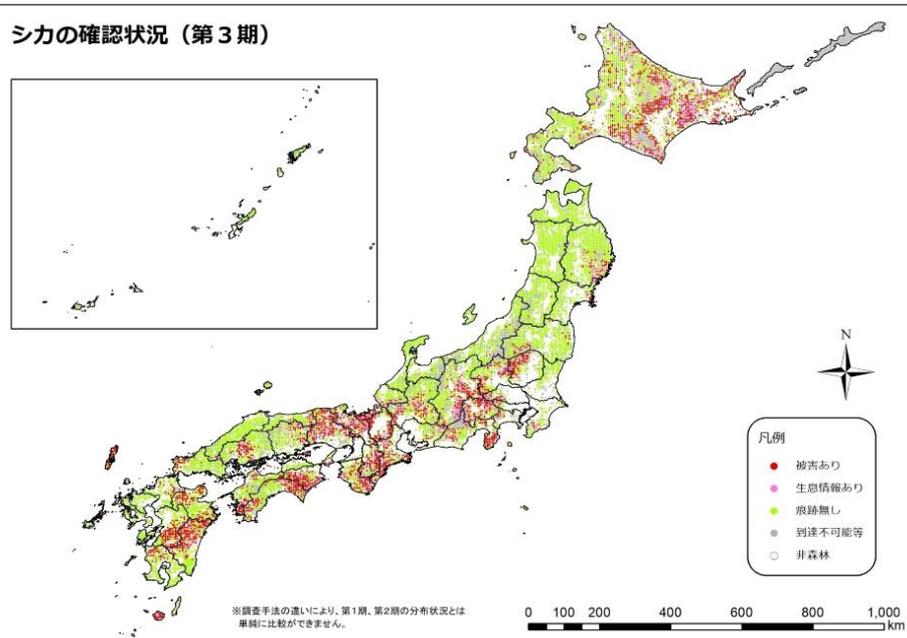
令和4年度ニホンジカ・イノシシ・アライグマに係る保護管理検討調査等業務報告書より

- 全国
 - 近年は減少傾向。
- 都道府県別
 - 西日本から関東にかけて、1970年代から生息が確認されていた地域で減少傾向。
 - データが少なく傾向判断ができない地域が多いが、東北等で増加傾向。

1. 現状 森林生態系被害

- 第3期調査（2009～2013年度）と比べ第4期調査（2014～2018年度）ではシカの被害が確認された地点数は増加。

	合計 (シカの情報が確認された調査点数)	シカの被害が確認された調査点数	シカの生息のみが確認された調査点数(被害なし)
第3期	3,979	2,890	1,089
第4期	4,942	4,044	898



1. 現状 状況の多様化

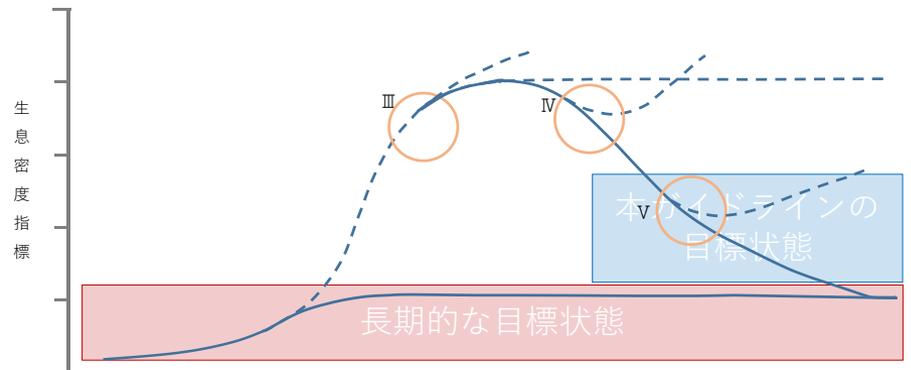
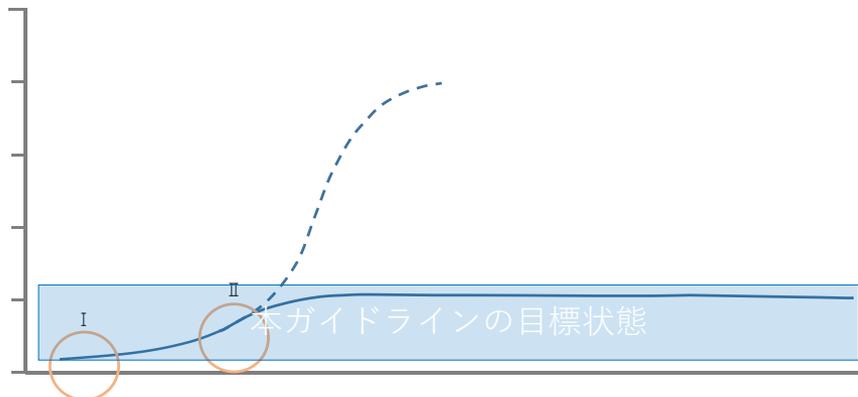
◆ 全国レベルのスケールにおける状況

- ニホンジカが長年生息しており、対策が進んでいる地域
→被害が減少傾向
- 近年分布が拡大（回復）しており、ニホンジカ対策が始まって年数が浅い地域
→分布拡大に伴い被害や生息数が増加傾向

➤ 状況が多様化する中、都道府県ごとに生息状況に応じた類型を把握する必要

◆ 都道府県レベルのスケールでも同様の状況がある場合

➤ 生息状況に応じた類型に応じて地域区分

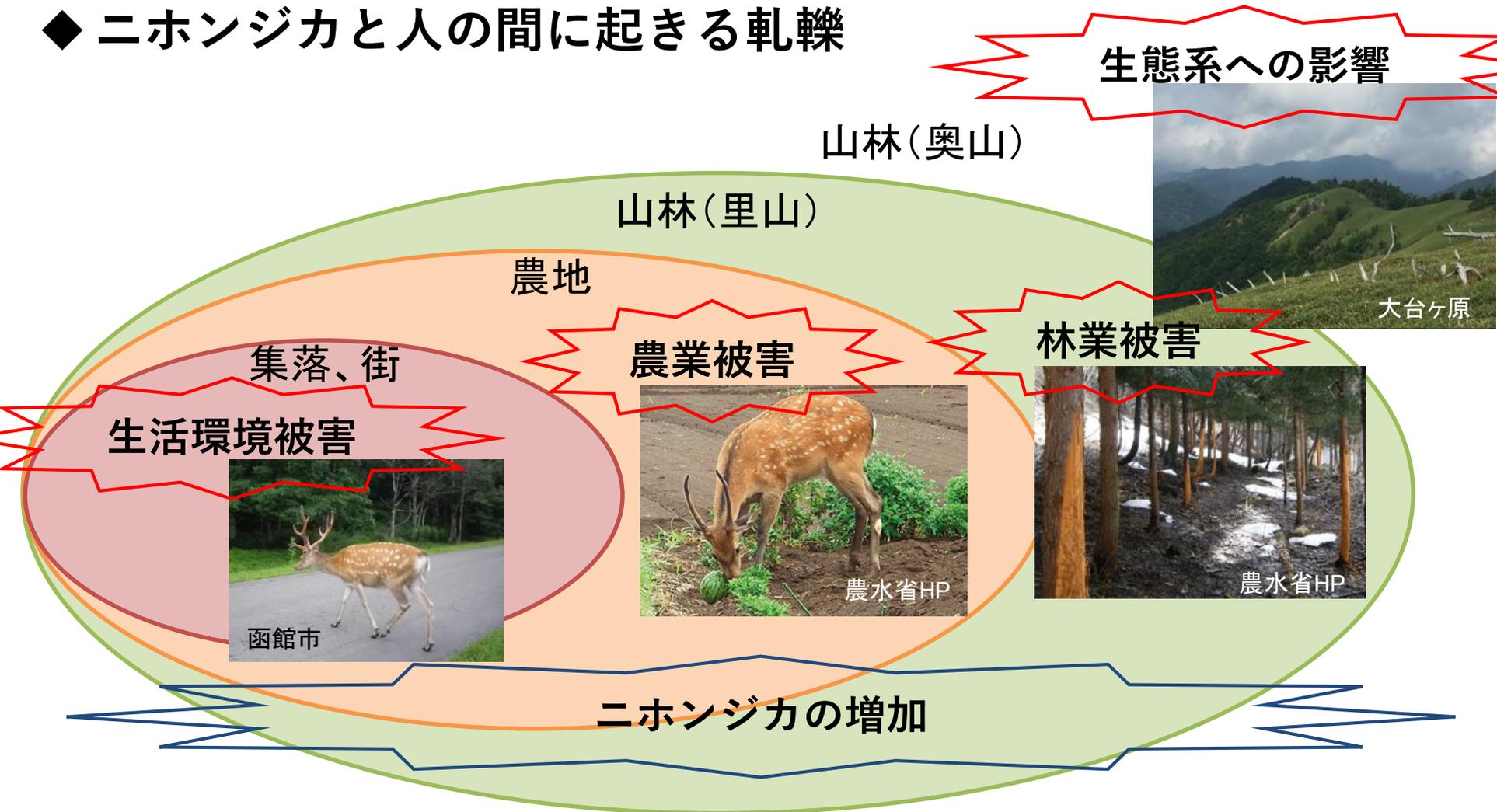


生息状況の類型区分

2. 特定計画の目的と目標

目的 科学的・計画的な保護又は管理を広域的・継続的に推進することにより、人と鳥獣との適切な関係の構築に資すること

◆ ニホンジカと人の間に起きる軋轢



2. 特定計画の目的と目標

目的

科学的・計画的な保護又は管理を広域的・継続的に推進することにより、人と鳥獣との適切な関係の構築に資すること

目標（例）

目的を達成するという状態を具体化

目標の分類	指標と数値目標	モニタリング指標
生態系への影響軽減 （主に山林（奥山））	植生衰退度4の地域を○割まで減少させる。	下層植生状況
林業被害の軽減 （主に山林（里山））	被害面積を○haまで減少させる。	林業被害面積
農業被害の軽減 （主に農地）	被害金額を○円まで減少させる。	農作物被害金額
生活環境被害の軽減 （主に街、集落）	交通事故件数を○件にする。	交通事故件数

目標の分類

指標と数値目標

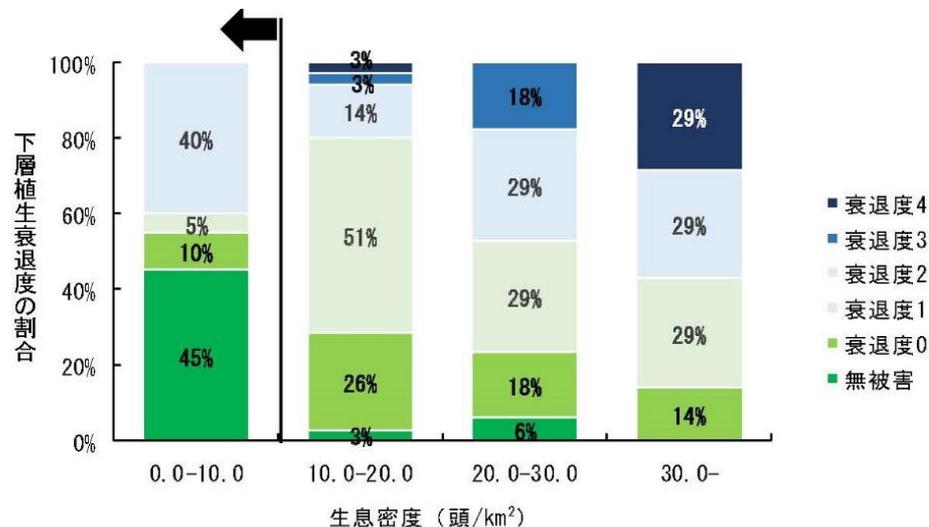
モニタリング指標

個体群を維持しつつ、被害の目標を達成できる水準まで低減

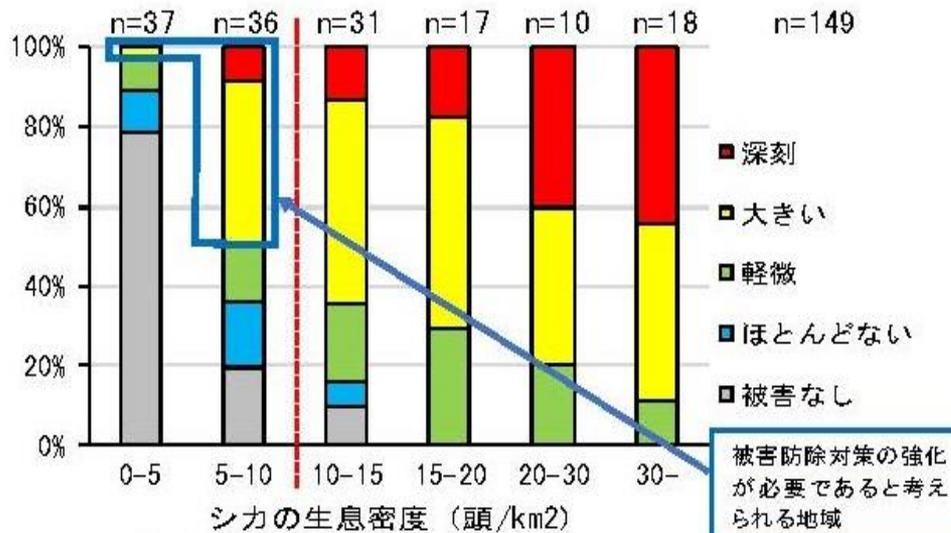
生息密度○頭/km²まで減少させる。

生息密度指標

2. 特定計画の目的と目標



下層植生衰退度と生息密度の関係(徳島県)



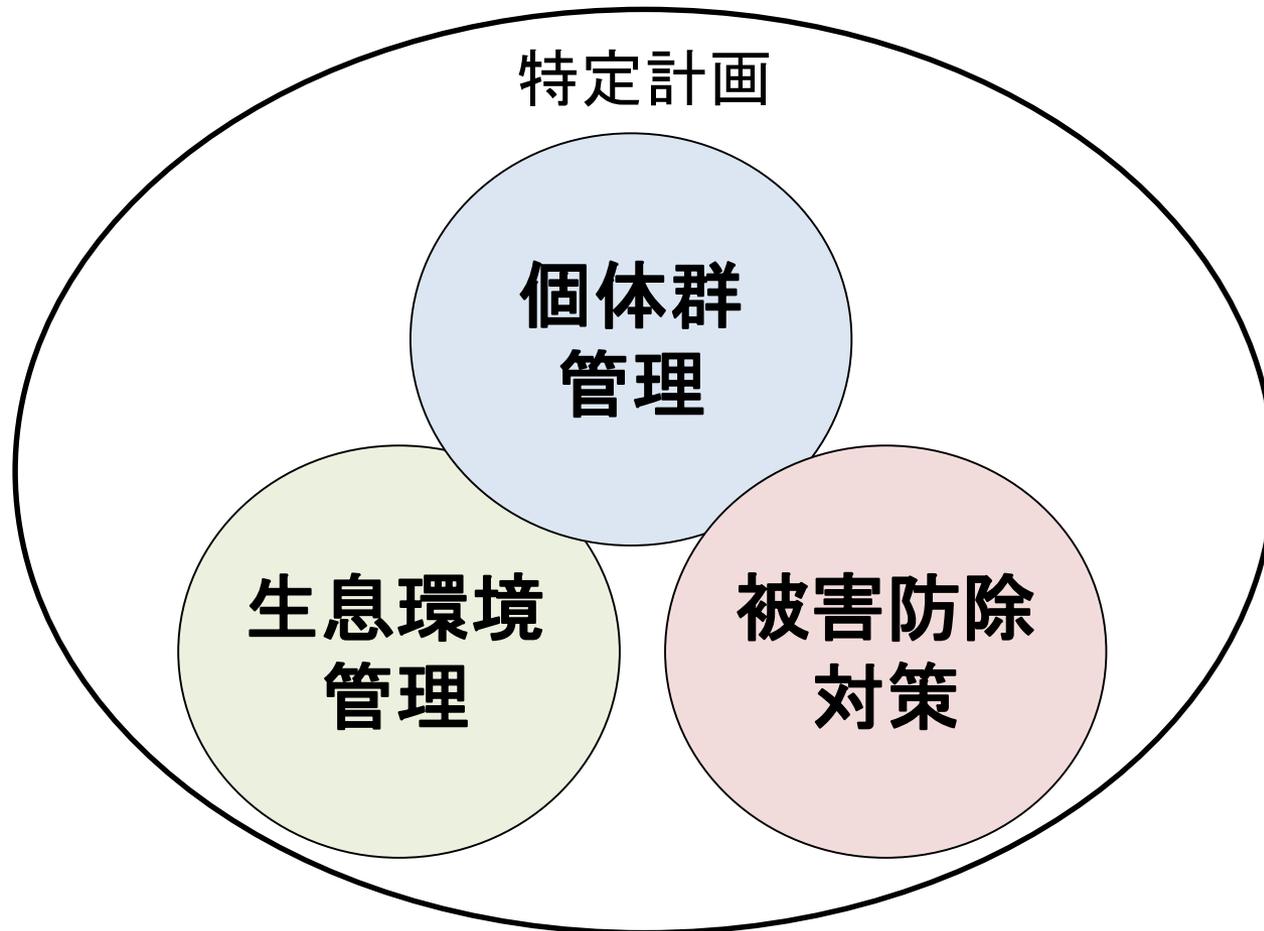
農業被害強度と生息密度の関係(大阪府)

◆ 被害の軽減や植生の被害軽減のために必要な生息密度

- 徳島県
 - 下層植生衰退度を3未満にすることを管理の目標。
 - 密度指標との関係分析の結果から、生息密度10頭/km²以下にすることを生息密度の目標として設定。
- 大阪府
 - 管理の長期目標として、農業被害強度（農業被害アンケート）が「大きい」又は「深刻」である地域をなくすことを目標。
 - 密度指標との関係分析の結果から、推定生息密度10頭/km²以上の地域をなくすことを生息密度の目標として設定。

3. 目標を達成させるための施策 保護管理の基本

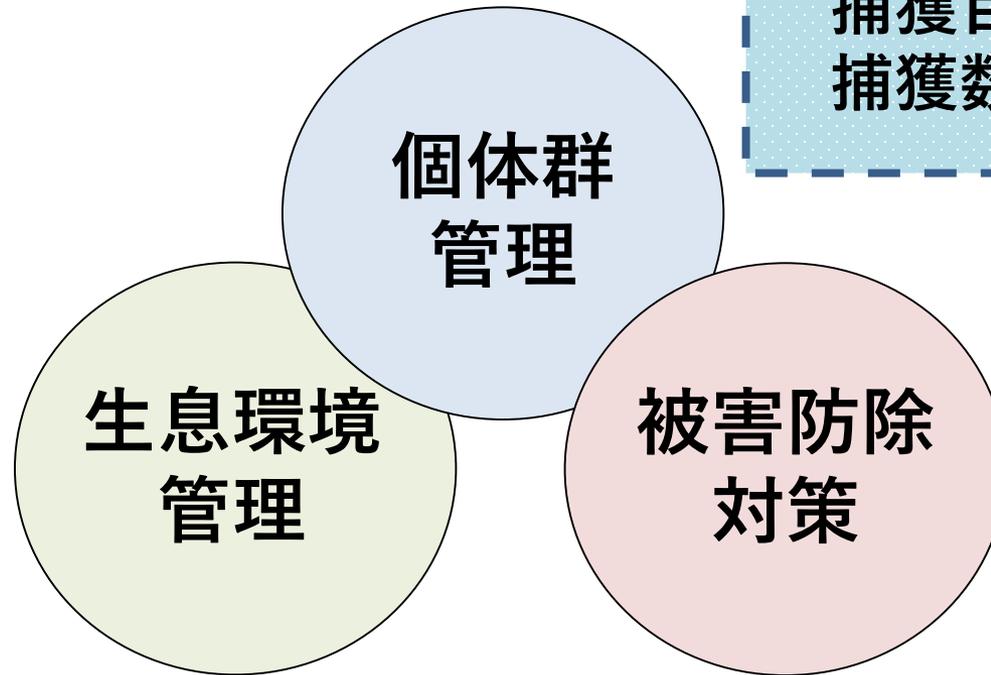
【野生鳥獣の保護管理のための基本的な施策】



3つの施策の組合せにより保護・管理を推進する

3. 目標を達成させるための施策 保護管理の基本

【ニホンジカの場合】



【個体群管理】

捕獲目標頭数の設定
捕獲数の配分

【生息環境管理】

人の生活圏に近づけない管理
山林における環境管理

【被害防除対策】

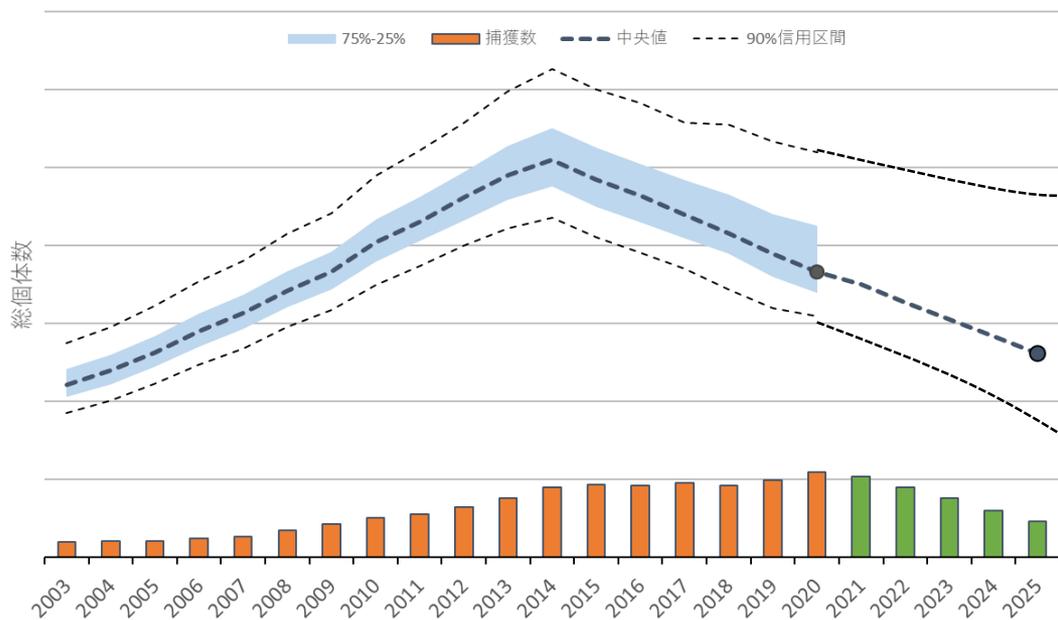
農業被害の防除
林業被害の防除
生態系への影響軽減対策

3. 目標を達成させるための施策 個体群管理

【個体群管理】

◆ 目標達成に必要な捕獲数の検討

- 個体数推定
 - 将来予測により、目標達成に必要な捕獲数を計算
- ※国の半減目標も考慮

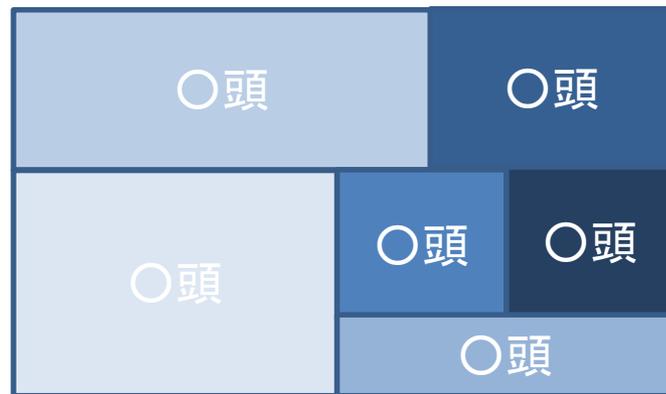


◆ 捕獲数の割り振り

- 捕獲区分

捕獲区分	頭数
狩猟	○頭：見込み頭数
管理捕獲(数の調整)	○頭
管理捕獲(被害防止)	○頭：被害防止計画と調整
指定管理鳥獣捕獲等事業	○頭

- 地域



3. 目標を達成させるための施策 被害防除対策

【被害防除対策】

◆ 農業被害の防除

- 農地に電気柵等を設置（自助）
- 集落柵を設置（共助）
- 柵設置等への支援（公助）

◆ 林業被害の防除

- 食害防止チューブの設置や忌避剤の散布（単木ごとの対策）
- 防護柵の設置（面的な対策）

◆ 生態系への影響軽減対策

- 植生保護柵の設置



集落防護柵



食害防止チューブ 林野庁HP

3. 目標を達成させるための施策 生息環境管理

【生息環境管理】

◆ 人の生活圏に近づけない管理

- 刈払いなどにより、市街地や農地等への出没を抑制するための緩衝帯を設定
- 進入経路と考えられる場所への柵設置等による遮断
- 野菜くずなどの放置対策
- 他獣種の対策とも連携

◆ 山林での環境管理

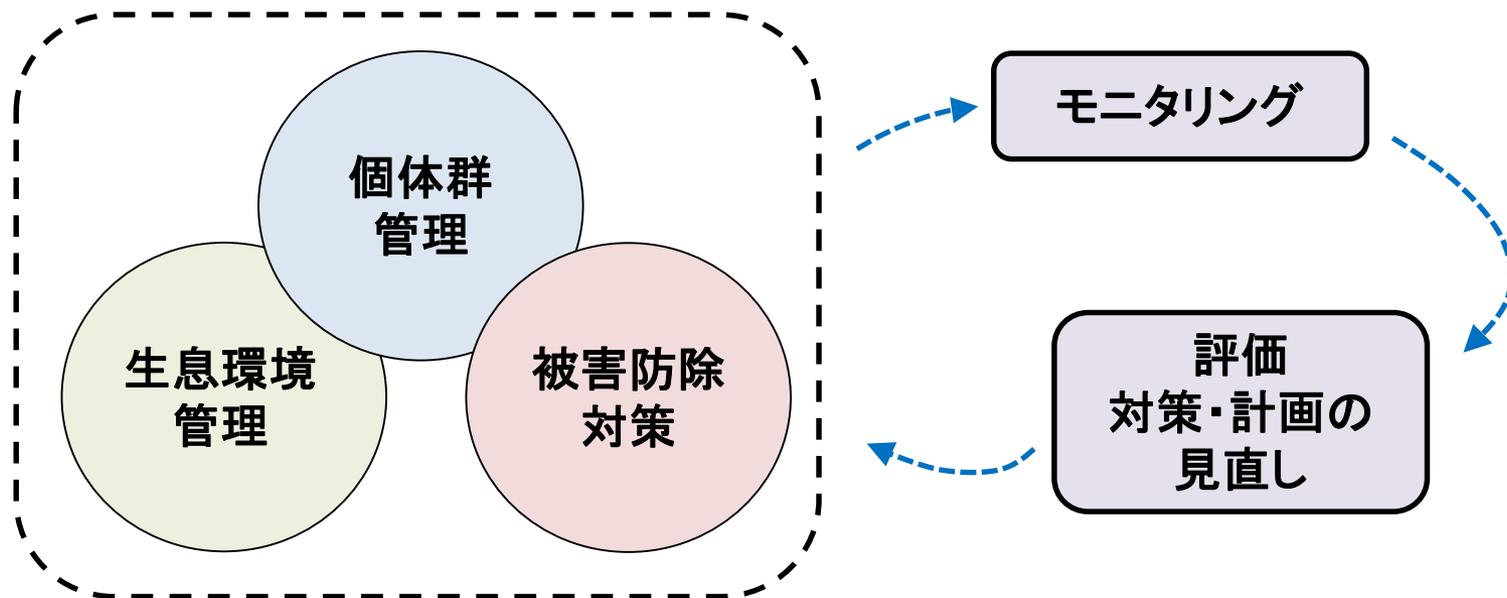
- 餌資源の多い環境を作り出さない
- 牧草地や伐採地への進入防止柵の設置（被害防除対策と連携）
- 牧草地や伐採地に誘引された個体の捕獲（個体群管理と連携）



緩衝帯整備

野生鳥獣被害防止マニュアル【総合対策編】 農水省HP

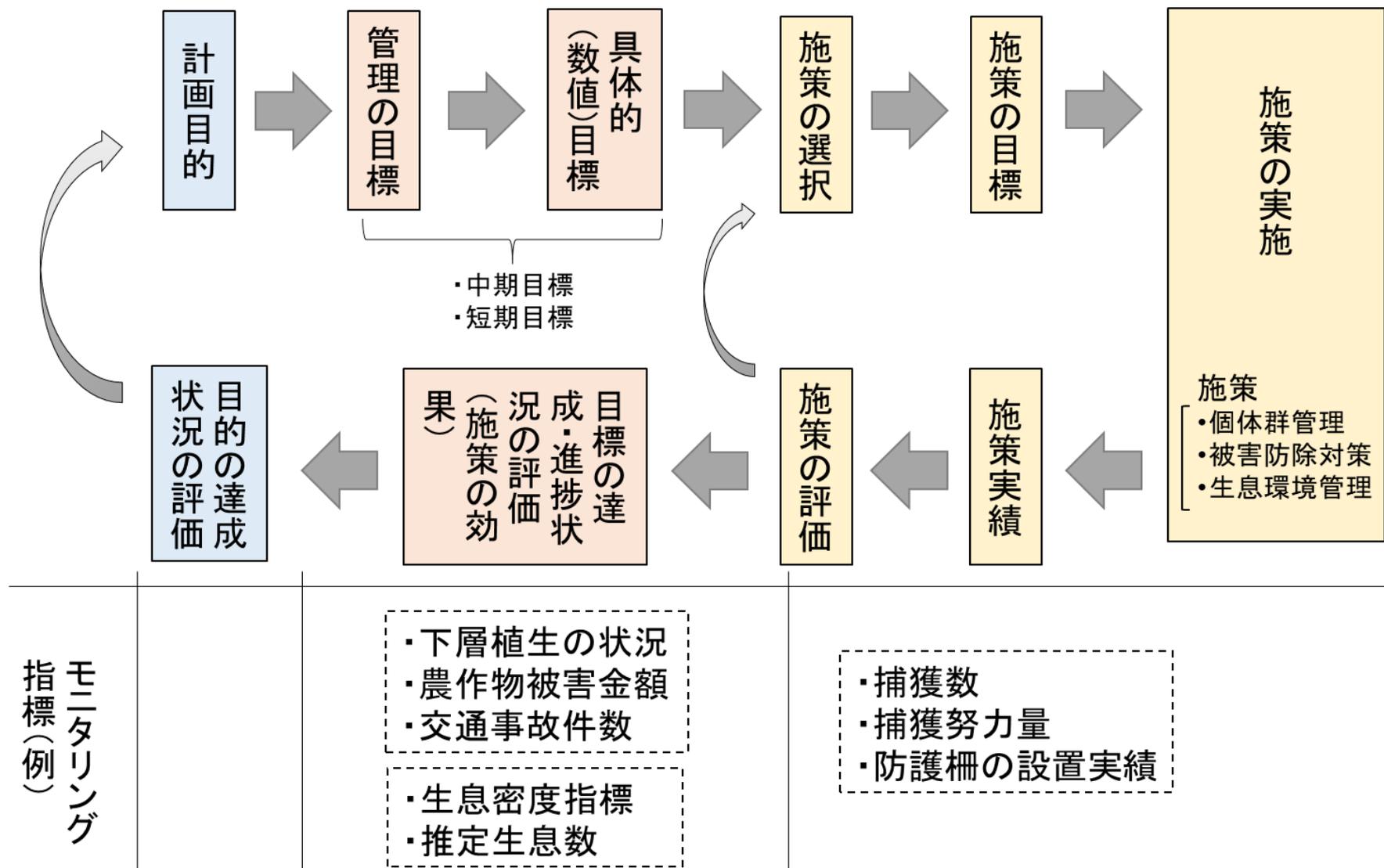
4. フィードバック管理



3つの施策の実行、モニタリングによる評価、改善のプロセスを順応的に行う

4. フィードバック管理

それぞれの目標等は順応的管理を行う中で見直しを行っていく



まとめと課題

◆ 地域によって状況が多様化

- 早くからニホンジカによる問題が発生していた地域
- 近年分布が拡大（回復）してきた地域
- その他、地域特有の事情

◆ ニホンジカに関する問題が多様

- 農林業被害や生態系への影響
- その他、市街地出没や感染症の問題

→ 地域の状況や問題を整理のうえ計画を作成し、目的に合致した施策の実行が必要

講義② 「地域の課題に応じた個体群管理と被害防除の総合的な対策」で紹介